図2 東武鉄道日光線開通当時の幸手町周辺を示す地形図（1934年）
出典：内務省地理調査所発行5万分の1地形図「幸手」（1934年（昭和9）要望修正）

松村公明教授の「わたしの宿場町」

幸手中心市街地は、日光街道の宿場町「幸手宿」を基盤として今に続いています。起点の江戸・日本橋から日光街道を辿ると、千住宿－草加宿－越ヶ谷宿（越谷）－粕壁宿（春日部）－杉戸宿を経て、六番目の宿場町が幸手でした。中心市街地の主軸となる日光街道沿線は、南から右馬之助町、久喜町、仲町、荒宿の4か町から構成され、街道に面する敷地建物の形状は、間口幅に対して奥行きのある「短冊状地割」を呈しています（図1）。街道から敷地奥の倉庫に商品を運搬するためのトロッコ、通称「横丁軌道」が活躍してきたのも、街道筋特有の地割のためです。商店街の業種構成は近年変貌してきましたが、注意深く観察すると、幸手は農村地域における物資の集散地・商工業の中心地として繁栄した昭和期の姿が偲ばれます。この点では、生活雑貨や食料品を取り扱う大都市の近隣商店街とは趣を異にしているのです。東武鉄道日光線の開業は1929年（昭和4年）です。旧宿場町の南西はずれに設置された幸手駅も（図2）、昭和期を通してこの町の玄関口として重要な役割を果たしてきました。首都圏はその名のとおり東京への通勤圏として位置づけられ、近郊都市＝ベッドタウンとして一様に見られがちですが、都市の起源や形成過程には多様性があることを、身近なまち歩きを通して発見することができるでしょう。

最後に、幸手市の人口は53,666で、埼玉県内40市のなかで最小となっていることを付け加えておきましょう（2008年10月1日の推計人口による）。東京50km圏に位置しながらも、都市化・中高層化の荒波を免れて、昭和の面影を今に残すささやかなまちがここにあります。表通りの街道筋から横丁や裏町へと気の向くままに足を運んでみられてはいかがでしょうか。

旧日光街道

松村公明教授
（立教大学観光学部）

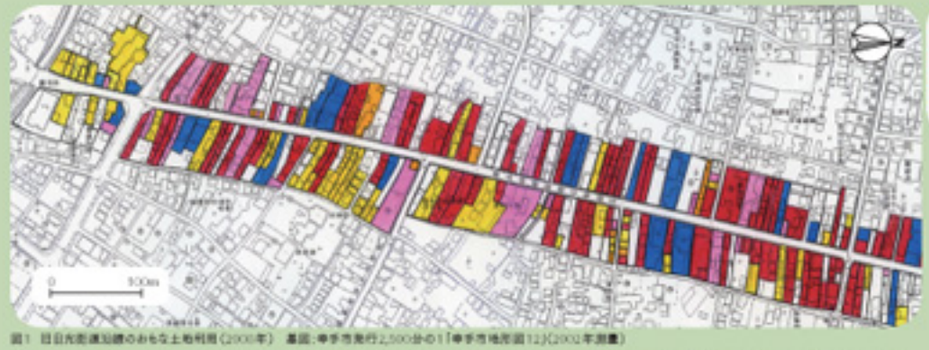

図1 日目光街道沿線のおもな土地利用（2000年） 基図：幸手市発行2,500分の1「幸手市地形図12」（2002年測量）

ぶらって幸手 武蔵野銀行、立教大学観光学部産学連携事業「埼玉 地域交流フットパスプロジェクト」
まち歩きマップ 3 週末、家族幸手日和
初版 2008年12月
問い合わせ 立教大学リサーチ・イニシアティブ・センター（RICS）
TEL048-471-6790 FAX048-471-6677
制作：武蔵野銀行、立教大学観光学部 協力：幸手市商工会
編集：中村正人編集事務所 デザイン：望月昭秀＋仲 麻衣（HIL SOKO） イラスト：あやぽ

武蔵野銀行＋立教大学観光学部「幸手まち歩きプロジェクト」

ぶらって幸手

週末、家族幸手日和

まち歩きMAP 3

よーちゃん
斉藤良弘、埼玉在住おたく

モロ
秋田犬

しあわせcafé Aiki

江戸時代の地割が今に残る日光街道の町並には、昭和の面影を残すレトロな雰囲気が漂います。そんな昔ながらの商店街の中には、化粧品店やブティックなど、実はおしゃれなお店がいっぱいあるんです。しかも、焼かりんとうや塩あんぴん、塩がま、桜アイスなど、都会ではお目にかかれないローカルなグルメもたくさん。優しくて人懐っこい店員さんとの交流から、幸手の新たな一面を発見できるかも。おいしいもの巡りに、裏道散策、楽しみ方は無限大。歩けば歩くほど、幸手の魅力に出会えます。地図にはそれぞれの趣に合わせたキャラクターを案内役として用意しました。彼らのルートを参考にあなただけのお気に入りを見つけに行きましょう。

山本家
父・誠光、母・聡美、
長男・和樹、長女・明美

「北千住・新越谷」方面より「東武日光線（急行南栗橋・区間急行鬼怒川行き）」をご利用ください。
「大宮」方面より「大宮」より東武野田線をご利用いただき「春日部」にて東武日光線（急行南栗橋・区間急行新鬼怒川行き）に乗換えください。

埼玉 地域交流フットパスプロジェクト

このプロジェクトは、武蔵野銀行の支援を受けて立教大学観光学部の学生が埼玉県の町を調査し、多世代にわたる人々が観光交流を通じて充実した生活を送ることができる旅の新しい楽しみ方を提案する事業です。関東圏の川越、東武鉄道、秩父鉄道の沿線から比較的歴史のある町を選定して、町を散策するまち歩き地図を作成し、域内交流を促進します。

幸手市は日光街道の六番目の宿場町として栄え、今でも特に「昭和」の面影を伝える懐かしい町並が広がっています。そこで、プロジェクトの第1回目として、全幸手市商連の日目光街道沿いを中心に調査し、まち歩き地図を作成しました。

まち歩きの際は、履き慣れた靴を選ぶなど、歩きやすい格好でどうぞ。リュックサックやポシェットなどの和は両手が自由になるのでお勧めです。また、休憩や水分をとるのを忘れないようにしましょう。幸などに注意し、各自責任を持ってまち歩きを楽しんでください。